

県酪だより

K E N R A K U D A Y O R I

2025

1

vol.325



年頭の挨拶

福島県酪農業協同組合

代表理事組合長

紺野 宏



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

日頃、組合事業にご支援・ご協力を頂いておりますことに対して、厚く御礼申し上げます。

令和六年元日に発生した能登半島を震源とする地震と津波によりご家族を亡くされたご遺族の皆様、被害に遭われた皆様に、改めてお悔やみを申し上げますと共にお見舞いを申し上げます。

平成二十三年三月十一日に発生した東北地方太平洋沖地震により被災した私たちは、全国から多くの支援を頂きました。この度の能登半島の震災に際し当組合は、全国組織と連絡を取りながら地元酪農組合へ支援できることを模索しました。その一つとして、能登地方にある酪農団地での断水

した牧場への給水作業の一役を担うことになりました。当組合から二名の職員、グループ会社である(株)らくのう乳販からも二名の社員を派遣していただき、連続した給水作業のバトンを繋ぐことが出来ました。被災地の酪農家が、一日でも早く日常を取り戻せることを祈っていたのですが、九月の豪雨が、その希望を大きく阻んでしまいました。

地震大国「日本」と地球規模での異常気象。「〇〇年に一度」の災害が日本のどこかで発生する怖さを肝に銘じなければならぬのかも知れません。

さて、現情勢において最悪の事案であるロシアのウクライナ侵攻・中東情勢は、依然として世界経済に甚大な影響を及ぼし、私たちの生活と経済活動において様々な形で表面化しています。更には平和社会の根幹である国際秩序を揺るがしかねない異常事態と言わざるを得ない状況が続いています。

そのような中、中央酪農会議は、指定団体に生乳を出荷している酪農家戸数が、昨年十月に一万戸を割り込み、九九六〇戸だと発表しました。さらに、現状の円安の影響

とみられる生産コスト高により経営環境の悪化により廃業を考える農家が、高い水準で存在していると発表しています。

全国組織の会長は「日本の酪農は、生産基盤の危機を迎えている。二〇一九年には、受託農家戸数が一二〇〇〇戸だった。五年間で四分の一の酪農家が、廃業したことになる。世界的な人口増加で乳製品の国際需要がひつ迫傾向にある一方で、国内の酪農家の減少が続けば、国産の牛乳・乳製品が入手できなくなる。こうした危機的な現状を知ってもらい、牛乳・乳製品を飲んで食べていただく機運を作りたい」とも述べられています。

中での酪農の果たす役割を自らの言葉で語りかけ始めています。

3. 11東日本大震災並びに東電原発事故から十三年十ヶ月が経過しました。令和三年から進めている浪江町棚塩地区における復興牧場建設は、公設部分の建設地造成並びに建築設計・建設、当組合が担う民営部分の法人設立等を順序立てて進めてきました。一昨年の予定地の「畜産施設敷地造成工事」に引き続き、昨年三月には、建築工事・施設工事等の安全祈願祭並びに起工式を執り行いました。その後、順次管理棟・牛舎などの建物の建設が進められています。一方で当組合としては、復興牧場設立準備室の職員を増やし、令和八年四月の開牧に向けて、自給飼料作付けの為に圃場確保と作業機の選定・手配等を検討するとともに堆肥・液肥の利用拡大に向けた情報収集・提供などの取り組みを行なってきました。

が、八月に浪江町と「畜産施設管理運営事業に関する協定締結」を取り交わし、正式に施設運営者となりました。これから、来るべき時期を見計らいながら諸規定等の整備を逐一確認しながら、人員のリクルート活動を始めていきます。

今後、福島県酪農の復興・生産基盤の確立を目指し、一年数か月後に迫った牧場の本格稼働に向け復興牧場設立準備室を窓口として町と連携を密に事業推進に当たってまいります。

休業中の四十九戸の酪農家においては、これまで以上に関心を寄せていただき、シャインコーズト株式会社へ開牧以降の自給飼料生産圃場の確保・試験作付けに直接・間接的に関わってくださることを期待しています。

結びに、グループ会社である酪王協同乳業株式が、広く県内酪農家の生乳の受け入れ先となり、これまで以上に福島県民に愛される牛乳・乳製品作りに寄与し、同じ子会社の(株)らくのう乳販共々

連携を強固にし、将来にわたり組合員の負託にこたえ得る組織として積極的に事業を展開してまいります。

本年も引き続き、福島県酪農の着実な発展へと

新年を迎えて

福島県農林水産部

部長 沖野 浩之



謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

皆様には、日頃より本県酪農の発展に格別の御配慮を賜り、厚く御礼申し上げます。

また、組合員の皆様には、安全・安心な生乳を生産するため、愛情を込めながら、日夜、乳用牛の飼養管理をされており、そのためまぬ御努力に心から敬意を表します。本県酪農を巡る情勢に

繋げていける年にしてまいりたいと存じます。

組合員皆様並びにご家族皆様にとつて幸多い年でありますことをお祈り申し上げます。新年のご挨拶と致します。



つきましては、浪江町などで進められている復興牧場の整備など、本県の生乳生産基盤の回復に向け、着実に歩みが続いている一方で、酪農家の高齢化や担い手不足による戸数の減少に加え、飼料価格の高止まり等厳しい状況が続いております。

このような中でも、酪農経営を維持し、魅力あるものにするためには、生乳の生産コストの低減等により、経営体質の強化を図るとともに、海外情勢の影響を緩和するため、県産飼料の増産と利用拡大を進めることが重要となっております。

貴組合におかれましては、創意工夫をこらした各種研修会を開催するとともに、遺伝子評価を活用した改良や、安全な自給飼料の生産に積極的に取り組まれるなど、厳しい酪農情勢の中でも力強い酪農経営を目指した取組を進めており、心強く思うところであります。

県といたしまして、能力の高い乳用雌牛の導入や牛群検定の普及拡大等の取組を推進するとともに、酪農経営をしっかりと支えるため、飼料価格上昇分の一部補助や、畑地における飼料作物の作付拡大への支援に加え、今年度は、飼料費以外の生産コスト上昇分についても一部補助するなど、経営の安定化に向けて取り組んでまいります。

今年の十月には、十周年に第十六回全日本ホルスタイン共進会が開催されます。本県酪農の改良成果を全国に披露する貴重な機会であることから、出品牛の上位入賞と共進会が円滑に実施できるように、万全を期してまいりますので、関係者の

皆様の御協力をお願いいたします。

結びに、福島県酪農業協同組合の益々の御発展と、組合員の皆様の御健

新年のご挨拶

日本酪農政治連盟福島県支部連合会

会長 木目澤次男



令和七年の新春にあたり、一言、御挨拶を申し上げます。

会員の皆様には常日頃から温かい御支援と御理解のもと、酪農政治連盟活動に御協力をいただきたいと考えておりますこと心から御礼を申し上げます。

世界情勢につきましては、ロシアによるウクライナ侵攻が既に三年目を迎え、膠着状態に入っております。一方、中東における戦争も依然継続しており、政治経済情勢に大

勝、御活躍を心から祈念いたしました。新年のご挨拶とさせていただきます。



きな不安要因を生み出しています。このような状況下、酪農業界は円安の進行、定着により生産資材価格が高止まりしており、今後の生産に大きな不安を落としております。また、物価高騰に伴う消費者の生活防衛意識の高まりなどにより、牛肉の需要は軟調に推移していることから、子牛価格も全般的に低迷しており、一層酪農経営を圧迫している状況となっております。

令和六年度四〜八月期の生乳生産は、全国では対前年度比で九・四％となっており、北海道は九・八％、都府県は九・八％となりました。

さらに、戸数の減少は今まで以上に減少率が大きくなっており、酪農業の崩壊にも繋がりがかねない重大な局面を迎えています。

酪農から産出される牛乳は我々の基礎的食糧であり、国内への安定供給責任を果たすためには、その飼料自給率をさらに高めることが肝要であると考えます。また、国土・環境の保全、堆肥の供給、雇用創出、食と命の教育資源等々の多面的機能を担っており、地域社会の維持に必要な不可欠な産業であります。しかし、地域社会を支えている酪農家ではありますが、鳥獣被害による自給飼料生産への被害等の影響は依然として甚大であり、人的被害も含め抜本的な対策が必要で、また、近年は山林の荒廃により、土砂災害等が多発し、下流域に住む人々への被害が拡大しています。農地の維持管理には農作物を栽培することはもとより、山林の管理も影響を及ぼすため、包括的な地域社会の維持も大変重要であると考えます。

日本酪農政治連盟としては、十月九日に中央委員会決定した内容に基づき、①酪農生産資材価格高騰に対する支援策、②生乳の需給改善対策の継続、③将来の生産資材価格の急速な高騰に対応する支援策の検討、④国産飼料の生産拡大・利活用促進に対する支援施策の強化、⑤改正畜安法の運用改善、⑥酪農経営の改善に向けた支援、⑦有害鳥獣被害対策について要請いたしました。

令和七年度の酪農対策等の政策の実行につきましては、政府原案といたしまして、加工原料乳生産者補給金制度に基づき交付単価が1kgあたり十一円九十銭となりました。内訳としましては、「加工原料乳生産者補給金」は九円九銭、条件不利地域からの集送乳経費を助成する「集送乳調整金」は二円八十一銭となります。

最後になりますが、会員の皆様にとりまして、令和七年が素晴らしい一年となりますよう祈念し、新年の御挨拶いたします。

新年のご挨拶

全国酪農業協同組合連合会 仙台支所

支所長 渡邊

和典



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

日頃より、弊会の事業運営への多大なるご指導、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年、新年早々に能登半島にて地震が発生し、その後の豪雨により、飼料および生乳流通経路の寸断や断水、そして停電による生乳廃棄など大きな被害が発生しました。改めて被害に遭われた酪農・乳業関係者に心からお見舞いを申し上げます。今年には災害のない平穏な一年であって欲しいと強く願います。

さて、酪農情勢につきましては、乳価の値上げ

はあったものの、ドル高円安傾向や地政学的リスクにより世界経済全体に悪影響を及ぼしており、あらゆるものが高騰したこと酪農経営を圧迫しております。十月には酪農家戸数が二万戸を割り、離農に歯止めがかからない状況が続いております。

このような中、六月に二十五年ぶりに食料・農業・農村基本法が改正され、基本理念に食料安全保障が柱として位置付けられました。世界の人口は増加しており、今後も食料需要は増え続け、将来海外産の食料や原料輸入が、量や価格の面でまかなわなくなる事態が予想される中、これまで以上に国内の生乳生産基盤の維持が重要になると考えております。

これに伴い、酪農及び肉用牛生産の近代化を図

るための基本方針の見直しについても、国内生産基盤の回復や酪農経営の持続可能な経営展開を目指し、議論が進められております。

私ども全酪連といたしましては、生産資材の安定供給はもとより、引き続き乳製品や食肉といった販売事業の強化を目指し、皆様のご協力を賜りながら、持続的な酪農生産基盤の構築に尽力してまいります。

また、酪農青年女性会議とともに牛乳・乳製品の消費拡大や、乳価への理解醸成活動を行っておりますが、今後は食料安全保障の視点も持ちつつ酪農を継続する意義も伝えてまいりたいと思っております。

更には、食料安全保障の観点と持続可能な酪農経営の構築に向け、引き続き日本酪農政治連盟や他団体と協調し、酪農対策の一層の充実について政府に強く要請してまいります。

最後になりますが、福島県酪農業協同組合の更なるご発展と、組合員の

皆様のご健勝とご多幸をご祈念申し上げます。新年のご挨拶といたしま



福島県酪女性部やまびこ会 スキルアップ事業開催



福島県酪女性部やまびこ会（会長 斎藤麻貴子）は、12月10日（火）に福島県酪農業協同組合で、牛乳・乳製品の消費拡大のために、ヨーグルトについて知識を高め、一般の方に広げていくことを目的とし、一般社団法人ヨグネット代表理事である向井智香さんによる『ヨーグルト研修』を開催いたしました。当日は会員の他、酪王協同乳業からも参加いただき総勢30人で開催されました。

向井さんは、毎日1～1.5kgのヨーグルトを食しSNSで商品レビューを発信されていて、ヨーグルトマニアとして活動されています。講習会の前々日に放送された「きっと明日はイイ感じ！」にもテレビ出演されていました。

そんな向井先生よりヨーグルトの基礎知識を教えて頂き、市販のプレーンヨーグルトの違いを試食しながら楽しく学ぶことができました。今、流行りのグreekヨーグルトの試食や、簡単レシピも教えて頂き、驚きや発見のある充実した講習会となりました。午後の部のグループディスカッションでは、活発な意見交換が行われ、酪王協同乳業からも色々お話を聞くことができ、「楽しかった」と大好評でした。（プレーンヨーグルトはやっぱり酪王「生乳100%ヨーグルト」が一番美味しかったと改めて実感！）

今回の活動を通して、ヨーグルトに対し高い関心を持つことができたので、これからは牛乳だけでなくヨーグルトの消費拡大にも取り組んでいけるようにしたいと思います。

最後に今回、酪王協同乳業より、たくさんのお土産を頂きお開きとなりました。ありがとうございました。



令和6年度 海外酪農研修助成事業 「ロイヤル・ウィンターフェア視察と カナダ酪農視察研修6日間」へ参加!!

令和6年度海外酪農研修助成事業において、10月5日(火)～10日(日)6日間の日程で、(一社)全国酪農協会主催の「第28回 ロイヤル・ウィンターフェア視察とカナダ酪農視察研修」が開催されました。当組合からは、県中地区(福島県酪農協酪農研究部所属)の福田 正幸さんが参加して参りました。

毎年、海外の酪農事情を間近に体験し、貴重な経験を得られる事業として参加者の募集を行っております。(新型コロナウイルスの影響により、令和2～5年においては視察研修については開催がありませんでした)

この度、カナダ酪農視察研修を終えての報告を参加された福田さんから頂きましたので、今月号と2月号に掲載いたします。

カナダ視察旅行に参加して

福田 正幸



今回の視察旅行でまず印象に残った事は、天気が良かった事と温暖化のせい、非常に暖かかった事。それからほぼ全てがキャッシュレス決済で済む事。なんなら全て携帯のタッチ決済で済んでしまったと言う事。そして何より、ショーの出品牛がどれも桁外れに素晴らしく、何をもって優劣を付けているのか? 服を選ぶように斑紋の好みで選んでいるのか? とさえ思ってしまった事でした。

5年ぶりの海外研修となった今回、11/5に羽田空港集合という事で、初めてのカナダと言う事もあり楽

しみにしながら集合場所へ向かいました。

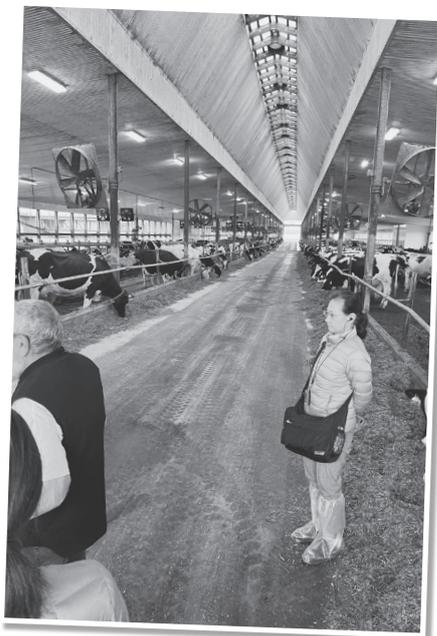
参加者は、お隣の酪農とちぎの組合長白井さんを団長に、事務局、添乗員を含む16名。結団式を終えて飛行機に乗り込み、12時間余りのフライト。行き先はカナダ最大の都市トロント。エコノミーは疲れますね。身体中痛くなりました。乗り降りの際に目にするファーストクラスの広さには嫉妬感を覚えます。

トロントの空港に来ていた現地ガイドの前田さんと合流し、近くのレストランにて夕食を済ませホテルへ。

ホテルは2人部屋で同室は熊本県酪連の桐木友輔くん。部屋飲みしようとしてビールを探したのですが自販機にも売店にも無い。聞くと酒販店で買うか飲み屋に行くしかないみたい。初日は大人しく寝ました。

さて、研修1日目は牧場視察。

ホテルを出発し、まずは向かったのはサミット ステーションデイ



リー (SAMMIT STATION DAIRY)。加工も手掛け、牧場内にショップも併設している。とにかく牧場が綺麗。ここのボスは能力と体型の両方を追求した経営は成功しないと言う考えから、搾り重視にした牧場で搾乳牛450、未経産550を飼育。フリーストールの16頭ダブルのパーラーで3回搾り。メインスタッフは6人でパートが25人。平均M14,000kg、F4.4%、P3.4%、生涯乳量160,000kgの牛も居るらしい。交配の8割は肉用牛、未経産には判別精液を使い効率的に改良している。

デントコーンと牧草をそれぞれ200haづつ作付けしていて、1頭あたりの餌代は約4ドルだそう。

めちゃくちゃ儲かってる感じです。

2002年にカナダホルスタイン協会からマスターブリーダー（その年最も酪農業界に貢献した酪農家）に推奨されたそうです。

牧場内のショップでは牛乳は勿論、肉類や様々な加工品が売られていて、みんな思い思いにお土産を買って牧場を後にしました。

次に移動途中での昼食は、今朝ホテルで渡されたランチボックス。

ショッピングモールの一角にあるフードコートで食べる予定なのですが、さも一般客と遜色ない様にとの事。ショッピングモールに着くと、なんとなくバラバラにフードコートに入り肅々と昼食を済ませました。でも、多少バラけたところで同じランチボックス持ってって食べてるんですから、どう見てもおかしいですよ!! (笑)



無事？昼食を済ませて次に向かったのはボスデール(BOSDALE)牧場。

こちらの牧場はショータイプの牧場。とはいえ平均M12,000kg F4.1% P3.3% なので十分搾ってます。65頭の繋ぎに16頭の治療ペンと乾乳ペン。

それと172頭のフリーストールに移行牛と治療牛用の14頭フリーストール。こちらは3台の搾乳ロボットで対応。搾乳回数は平均2.8回程度に調整してあるそうです。それを15人のスタッフで管理。

この頭数でエクセレントが80頭、ベリーグッドが110頭、グッドプラスが30頭と言う驚異的なスコア。

繁殖は基本AIで不受胎牛にはET。販売目的で年間8回採卵してお



り、販売価格は1,000~1,500ドル。

フリーストール牛舎とロボット（デラバル V310）は2020年に約3億円を懸けて整備。

この牧場もとても綺麗で更に牛が凄い！繋ぎ牛舎の方は特に丁寧に管理されてるなあという印象を受けました。

サミットステーションもそうでしたが、フリーストール牛舎はベッドの敷料に砂を使っていて、そうする事で細菌の繁殖を抑えられるので、乳房炎や蹄病も少なく抑えられるそうです。

どちらの牧場も蜘蛛の巣が無くカナダには蜘蛛が居ないのか？と思わせる程でした。

牧場視察が終わり一旦ホテルに戻り、そのあとホテル近くの大きなスーパーを案内してもらいました。

まず気になるのは牛乳。並んでいるのはpartly skimmed milk（全乳から脂肪分の一部を取り除いた「部分脱脂乳」）ばかりで日本で売られている成分無調整と言うのは売られていない。

脂肪0%、1%、2%、3.25%と言ったラインナップで脂肪分で価格差は無く、値段は3.59~4.69\$（CAD）/L。レートが約110円/1\$（CAD）。

クリームが意外と安く18%のテーブルクリームが7.3\$（CAD）/L、35%のホイップクリームが9.18\$（CAD）/L。バターが5.99~8.99\$（CAD）/1ポンド（454g）。



肉類は鶏肉が高いとガイドさんから聞いていて、胸肉800g/13\$、手羽1.7kg/22\$、丸鶏1羽1.8kg/14\$。豚ロースブロック22.13\$/kg、ヒレブロック19.82\$/kg、骨付きリブブロック22.02\$/kg。

アンガス牛リブステーキ66.11\$/kg、プライムカナディアンビーフ（カナダの牛肉格付け制度における最高品質のグレード）サーロイン70.53\$/kg。

鶏が高いだけあって卵が12個1パック4.63~8.15\$とかなり高価。

日本酒も売ってまして、四合瓶で大関14.15\$、松竹梅12.8\$、白鶴10.4\$など。

ビールはクラフトビール1本（472ml）3.5~3.85\$。

ガイドさん情報でケチャップ味のポテトチップが珍しく、アメリカ人がわざわざ国境を超えて買いに来ると言う事で、プリングルのケチャップ味3.99\$買って来ました。その他のメーカーでもケチャップ味のラインナップが揃ってました。

地元スーパーを楽しんだあとは一旦ホテルに戻り、荷物を置いて近くのレストランへ夕食に。チキンがメインの夕食でした。

夕食が早めに済んで時間があつたし、せっかくなので、地元の雰囲気を楽しもうと群馬の野口君と近くのバーへ飲みに出掛けてみました。大勢のお客さんで賑わっており、雰囲気も良かったのでビール2杯とテキーラをショットで数杯頂きました。

帰りにコンビニに立ち寄ったら、あのビー玉の入った瓶の「ラムネ」が並んでるのにびっくりしました。しかも、ノーマルの他、レモン、白桃、メロン、イチゴ、ライチ、ヨーグルトなど種類もたくさん！

そんなこんなで夜の街も楽しめました。



購買畜産課

令和7年1～3月の牛用飼料価格について

令和6年度第4四半期（令和7年1月～3月）の牛用飼料（配合・哺育）につきまして、下記のとおり価格改定を致しますのでご案内申し上げます。

記

改定額(令和6年10～12月期対比)

(1) 牛用配合飼料 トン当たり

2,650円値上げ

(2) 牛用哺育飼料 トン当たり

43,000円値上げ

原料情勢等につきましては、以下のとおりです。

主原料である米国産とうもろこしは、12月10日の米国農務省の需給予想において、2024年産の生産量は151億4,300万ブッシェル（3億8,465万トン、前年比98.7%）、単収は183.1ブッシェル/エーカー、総需要量は151億9,000万ブッシェル（3億8,584万トン）、期末在庫は17億3,800万ブッシェル（4,415万トン）、在庫率は11.44%と発表されました。

シカゴ定期は米国が豊作となり南米も順調に推移していることから軟化が期待されましたが、ブラジル産の国内需要増加により輸出向けの数量が減少しているため米国に輸出需要が集中し、シカゴ定期は強含みで推移しています。

大豆粕は、米国・ブラジルでの豊作見込みからシカゴ定期は軟調に推移している一方で、中国産は為替円安や米中貿易摩擦懸念による米国産大豆の輸入量減少の可能性から産地価格は強含みで推移しています。

糟糠類について、グルテンフィードは主製品の

不需要期に入るため稼働が減少し需給がひっ迫しています。また、中国産は為替円安や海上運賃の上昇により相場は堅調に推移しています。ふすまは猛暑による需要の減少から一時的に供給余力は出て来ましたが、冬期に向けて需要が回復していることから相場は横ばいで推移しています。

脱脂粉乳は、東南アジア向け需要が旺盛なことや、欧州での生乳生産量が落ち込んでいることによる産地価格の上昇により、相場は堅調に推移しています。

海上運賃については、中国の大型連休の影響で一時値を下げることもありましたが、基本的には石炭や鉄鉱石、農産物の需要は旺盛であり、堅調に推移しています。

為替相場は日銀の金融緩和政策の継続姿勢、米連邦準備制度理事会での利下げ姿勢に加え、米国大統領選挙の結果によるインフレ懸念より円安ドル高基調で推移しています。

全酪連の小窓 1月号 ～乳房炎予防～



新年おめでとうございます。今年一年も皆様の酪農経営のサポートに努めてまいりますのでよろしくお願いいたします。

寒さが厳しい時期にはなりますが、この時期は暑さが来る前にできる限り出荷乳量を伸ばしていきたいタイミングになります。今一度、乳房炎予防に努めていただき、気持ちいい新年が始めるために参考になれば幸いです。

乳房炎の原因

搾乳時にバクテリアが乳頭孔を通して乳房に入り込み、乳を分泌する乳腺組織で炎症を起こすものを乳房炎と言います。

乳房炎には伝染性と環境性の2つに分けられます。（下図）

体細胞（ブツ）の殆どは、侵入してきた微生物と闘った白血球の死骸です。炎症に伴い赤く腫れる、堅くなる、膿の露出、痛み、熱などの症状があります。

●伝染性病原菌

- ・搾乳中に牛から牛へ伝染
- ・無乳性連鎖球菌、黄色ブドウ球菌、マイコプラズマ



●環境性病原菌

- ・付着した菌類が搾乳中に感染
- ・環境性レンサ球菌、大腸菌類、環境性ブドウ球菌

乳房炎対策の5原則

1. 乳房を清潔に保つ
2. 正しい搾乳手順でおこなう
3. 搾乳器械を正しく維持して使用する
 - ▶ 小規模牛群では年に1-2回の点検
 - ▶ 大規模牛群では最低3ヶ月に1度の点検
 - ▶ ライナーの交換（ゴムは1500搾乳を目安に）
4. 適正な乾乳牛管理を実践する
 - ▶ 乾乳期治療と牛を清潔に保つこと
5. 伝染性病原菌に対する生物学的安全性を維持する
 - ▶ 搾乳順序を考える
 - ▶ 導入牛や初産分娩牛には注意！

原因菌感染の
タイミングは
搾乳中での感染
がほとんどです。
そのため、搾乳時に
使用する器具の衛生
管理は特に念入りに
行いましょう



廃用・死廃率No.1の乳房炎は？

大腸菌群は増殖スピードが速く、甚急性乳房炎になるとエンドトキシンと呼ばれる内毒素によりショックを引き起こし症状が急激に進み、泌乳の停止や、最悪の場合牛が死亡することもある疾病になることがあります。

大腸菌群は環境性の乳房炎原因菌であり、糞やオガクズ、汚水に多く含まれています。そのため大腸菌性乳房炎の発生は環境衛生や搾乳衛生と密接に関係しています。

予防策

大腸菌群は牛舎内のあらゆるところにいるため、乳頭への付着を100%防ぐことは不可能です。予防策の第一は牛床を乾燥・清潔にすることです。発症しやすいタイミングとしては季節的な寒さ・暑さによるストレスを感じる時や分娩前後になるため、このタイミングでの適切な飼養管理が必要です。カウトレーナーを利用している場合は、個体にあわせた位置の調整と牛床のこまめな除糞が重要です。

搾乳時にはプレディッピング、徹底した乳頭洗浄やライナーズリップを防止するなどの搾乳衛生にも気をつけましょう。また、過搾乳による乳頭口の損傷が乳頭口のバリア機能を低下させるので、乳汁の流量に適したユニットの離脱を心がけましょう。（後搾りに注意）

一般的にみられる事例と要因

- ① 分娩後日数が進むに連れて体細胞数がだんだんと高くなる
→ 搾乳手順に問題がある場合が多いです。特に過搾乳は厳禁です。搾乳の前処理、乳頭の清拭やディッピング、乳頭口の状態、ミルカーの真空圧等を確認してください。
- ② 突然、体細胞数が高くなる牛がいる
→ 伝染性乳房炎が疑われます。培養検査を実施して原因菌を特定しましょう。体細胞数が高い牛の搾乳は一番最後に行うようにし、また前搾り乳の牛床への廃棄やタオルの使い回し、糞尿等による牛床の衛生状態の悪化も原因となります。
- ③ 2産以上の牛で分娩直後から体細胞数が高い
→ 乾乳期の乳房炎治療が十分でなかったことが考えられます。また、乾乳期の管理に問題がある場合もあります。例えば、乾乳直後7～10日程度のディッピングの継続、また、分娩前に漏乳した場合のディッピング等の管理を怠ると乾乳期間であっても乳房炎を罹患します。
- ④ 初産牛で分娩直後から体細胞数が高い
→ 育成管理に問題あることが考えられます。育成舎の衛生環境や分娩前の乳房の状態を確認しましょう。

給与方法や給餌メニューでご不明点ありましたら、全酪連スタッフや県酪職員へご相談ください！

ZENRAKUREN



ZENOAQ コーナー Vol.241



〒963-0196

福島県郡山市安積町笹川字平の上1-1

日本全薬工業(株) 福島営業所

TEL0120-452-464 FAX0120-661-255

冬将軍がBRDCを連れてきました。

2025年もどうぞよろしくお願いいたします。

表題にありますように、12月から本格的な冬が到来しBRDCのシーズンがやってきました。新年1回目のゼノアックコーナーは、BRDC対策の話題提供をしたいと思います。

今年も
どうぞ宜しく
お願いします。



BRDCとは

肺炎に代表される牛呼吸器病症候群を指します。【Bovin (牛の)】【Respiratory (呼吸器の)】【Disesaes (病気)】【Complex (複合体)】の頭文字をとって【BRDC】と呼ばれます。

呼吸器病は飼育下でのストレス、飼養管理、病原体（細菌、ウイルス、マイコプラズマなど）感染などの複数の要因が絡み合い、発病に至る経過や症状が複雑な様から名づけられたと言われています。牛の産業界で大きな経済的損失をもたらす疾患です。発生時期はオールシーズンですが、特に気温が低下する冬期間が多いです。

BRDCのコントロール

BRDCをコントロールするには、栄養、免疫（ワクチネーション）、ストレス対策、抗菌剤の投与、そして環境対策など様々なものがありますが、今回は環境対策の面からのコントロールの話をしていきます。

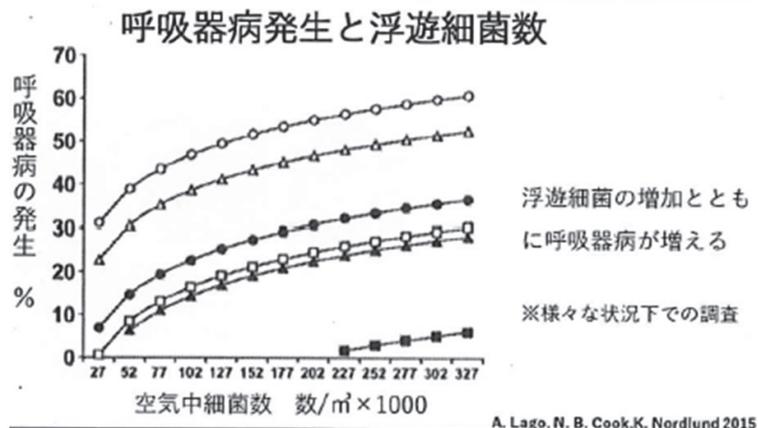
BRDCのコントロール～換気～

BRDCのコントロールとして、まずはじめにお話するのが、【換気】です。
換気がどれくらい重要かは、BRDCの発生パターンから考えると分かり易いです。

空気中の浮遊細菌やオガクズの埃などで、鼻腔や扁桃など気管上部が傷つき、そこへマイコプラズマボビスが感染し、免疫が低下したところに重篤化しやすいマンヘミアヘモリチカが混合感染することで一気に重症となります。

右の図のように、様々な状況下での調査で、空気中の浮遊細菌数が増えると、呼吸器病の発生も増える事が分かります。

BRDCのきっかけは、空気中の一般細菌や、埃であるので、子牛牛舎の換気は非常に重要なことがお分かりになるかと思えます。



しかし、現実問題こまめな換気はなかなか難しいと思います。

例えば、牛舎の中で、おが粉やわらなど敷料を投入した時には子牛たちも喜んで跳ね回り、結果埃が多くなります。その時に積極的に換気をするだけでもその後のBRDCの発生の予防となります。

換気VS保温

ここで、換気をするにあたりちょっとした注意事項です。換気をしっかりすることにより、残念ながら牛舎内の気温は外気温と同じくらいになります。換気と保温はどうしても相反するものなので、子牛にはしっかりと保温対策をすることがセットとなります。

- ・カーフジャケットや、コルツヒーターでの保温。
- ・気温低下でお腹が冷えないように、濡れた敷料や直のコンクリートは避け、できるだけフカフカの敷料をお願いします。

写真にある様にカーフジャケットを着せるだけで+5℃の保温効果があると言われています。

BRDCは罹患すると一生のダメージとなります。コントロールして丈夫な子牛育成をしましょう。 〇



令和6年度11月別支払乳価表

今月のプール乳価・補給金・集送乳調整金を含めた支払乳価は、132円47銭4厘で前年より92銭上回る単価となりました。生乳取引価格については、令和4年11月1日から飲用向け及び発酵乳向け10円/kg(税抜)の値上げが、令和5年4月1日から学乳向け及び乳製品向け10円/kg(税抜)の値上げとなっております。また、令和5年8月1日からは飲用向け及び発酵乳向け、学乳向けが10円/kg(税抜)の値上げとなっております。さらに、令和5年12月1日取引分から乳製品向けのうち油脂分(バター向け及び生クリーム向け)の生乳取引価格について6円/kg値上げの期中改定となっております。

- 東北全体プール乳代金 4,378,835千円 単価129.898円
- 内 福島県分プール乳代金① 487,652千円 単価129.898円
- プール対象外乳代金② 97,170千円
- (学乳向け・買取向け乳代金)

合計乳代金①+② 584,822千円 単価135.051円

項目	令和6年11月	前年同月	増減	前々年同月
プール乳価	131円433	130円596	0円837	119円091
補給金単価	0円801	0円734	0円067	0円790
集送乳調整金単価	0円240	0円224	0円016	0円247
合計	132円474	131円554	0円920	120円128

(注)上記合計は、脂肪率3.5%・無脂固形率8.3%の補給金込みの乳価。

(東北全体11月)

用途別	販売乳量(ト)	日量(ト)	前年比(%)	シェア(%)	前年度シェア
飲用向け	25,094	836.0	102.7	69.3	68.7
加工向け	2,472	82.0	116.0	6.8	6.0
学校給食向け	2,478	83.0	98.5	6.8	7.1
発酵乳向け	5,405	180.0	96.5	14.9	15.7
生クリーム向け	597	20.0	79.6	1.6	2.1
チーズ向け	142	5.0	98.6	0.4	0.4
合計	36,188	1,206.0	101.7	100.0	100.0

備考 1) 買取乳量を除く

団体別受託乳量の状況

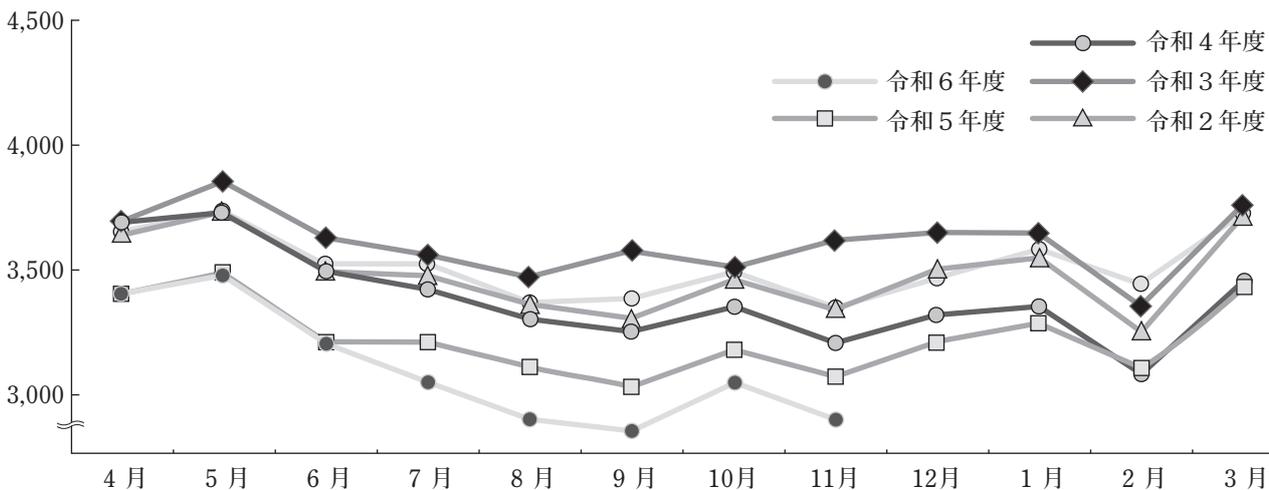
北海道：102.3%、都府県：99.3%

団体名	11月分		
	受託乳量(ト)	日量(ト)	前年比(%)
県酪協	2,990	99.7	97.4
全農福島県本部	1,340	44.7	99.5
合計	4,330	144.4	98.0
東北生乳販連	36,188	1,206.3	101.7
全国	545,272	18,175.7	101.0

月別受託乳量 県酪協 (トン)

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和2年度	3,642	3,739	3,495	3,482	3,363	3,310	3,458	3,341	3,505	3,549	3,268	3,723	41,874
令和3年度	3,693	3,859	3,629	3,599	3,564	3,486	3,578	3,515	3,619	3,652	3,353	3,760	43,307
令和4年度	3,691	3,733	3,494	3,434	3,305	3,255	3,354	3,210	3,324	3,355	3,088	3,456	40,699
令和5年度	3,407	3,492	3,217	3,217	3,117	3,037	3,185	3,070	3,235	3,298	3,155	3,454	38,884
令和6年度	3,405	3,480	3,206	3,058	2,981	2,897	3,078	2,990					
前年比%	99.9	99.6	99.7	95.1	95.6	95.4	96.7	97.4					

単位・トン



令和6年度受託乳量の状況

令和6年11月の受託乳量は、県全体で前年比98.0%の実績でありました。

団体別の受託乳量は、本組合が2,990ト、前年比97.4% (対前年同80ト減)、全農県本部は1,340ト、の対前年比99.5% (対

前年同月6ト減) の実績でありました。

東北生乳販連の受託販売実績については、前年比101.7%となりました。

なお、全国の受託実績は対前年比101.0%となりました。

令和6年度用途別販売乳量の状況（東北全体）

東北全体の用途向け販売数量は、前年比で飲用向けが102.7%、加工向けが116.0%と上回り、学校給食向けが98.5%、醗酵乳向けが96.5%、生クリーム向けが79.6%、チーズ向けが98.6%と下回って推移しました。引き続き、福島県産牛乳・乳製品の消費拡大にご協力をお願い致します。

令和6年度の補給金単価については、加工原料乳生産者補給金単価が生乳1キログラム当たり前年度比23銭引き上げの「8円92銭」、集送乳調整金を同3銭引き上げの「2円68銭」、総交付対象数量については、前年度比5万トン減の「325万トン」で決定しました。補給金単価と集送乳調

整金単価を合算すると、前年度比26銭上げの「11円60銭」となります。補給金単価の上げ要素としては、飼料費と副産物価格の高騰等、下げ要素としては搾乳牛1頭当たりの乳量の増加、乳牛償却費の減少があり、集送乳調整金の上げ要素としては、集送乳委託費の増加が挙げられます。総交付対象数量の算定に必要な「推定乳製品向け生乳消費量」は、国民一人当たりの乳製品の消費量について過去10年間のトレンドから算出されています。

なお、今月の酪王協同乳業（郡山工場）の生乳使用量は日量平均27.4トﾝ（前年比60.8%）で、本組合生産量の27.5%、県全体生産量の19.0%の処理量となりました。

1. 年次別・月別支払乳価一覧（補給金・集送乳調整金を含む）

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
令和6年度	128.759	130.057	132.319	131.084	130.136	133.294	132.236	132.474					
令和5年度	120.673	121.861	122.643	121.705	129.935	133.579	132.503	131.554	128.815	130.032	130.533	127.295	127.594
令和4年度	109.973	110.973	112.420	111.282	110.437	112.872	112.484	120.128	117.186	118.965	119.149	116.514	114.365
令和3年度	110.502	111.609	113.060	111.724	110.197	112.507	112.537	112.319	109.640	110.594	110.503	109.010	111.184
令和2年度	108.959	110.268	113.694	113.625	112.257	114.269	113.489	112.845	111.265	111.109	112.190	109.876	111.986

乳牛頭数調査集計表（公共機関を含む）

令和6年11月30日現在

地 区	酪農家戸数			乳 牛 頭 数									
	戸数	前年度戸数	前年比	育成	初妊	経産牛				合計	前年度頭数	前年比	1戸当り頭数
						乾乳妊娠	妊娠搾乳	空胎搾乳	小計				
県 北	戸 22	戸 26	% 84.6%	頭 355	頭 180	頭 157	頭 332	頭 750	頭 1,239	頭 1,774	頭 1,862	% 95.3%	頭 80.6
県 中	43	48	89.6%	224	124	182	293	649	1,124	1,472	1,585	92.9%	34.2
浜	6	6	100.0%	95	40	26	48	123	197	332	322	103.1%	55.3
県 南	30	32	93.8%	506	256	233	436	976	1,645	2,407	2,494	96.5%	80.2
合 計	101	112	90.2%	1,180	600	598	1,109	2,498	4,205	5,985	6,263	95.6%	59.3

地 区	月 別 分 娩 予 定 頭 数							販 売 乳 量				
	令和6年	令和7年	令和7年	令和7年	令和7年	令和7年	令和7年	生乳出荷戸数	地域別販売乳量		1日1頭当り乳量	
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月		1日当り	1日1戸当り	搾乳牛	経産牛
県 北	頭 94	頭 104	頭 110	頭 100	頭 92	頭 74	頭 95	戸 19	kg 30,700	kg 1,616	kg 28.4	kg 24.8
県 中	125	105	75	97	60	55	82	42	23,496	559	24.9	20.9
浜	23	13	20	10	14	12	22	6	5,297	883	31.0	26.9
県 南	214	139	148	107	120	89	108	29	40,311	1,390	28.5	24.5
合 計	456	361	353	314	286	230	307	96	99,804	1,040	27.7	23.7

第350回 県酪協乳牛市場成績

令和6年12月12日開催

購買者数 18名 (うち県外12名)

畜種	雌雄	成立数 (成立率)	最高価格 最低価格	平均価格 (前回比)	平均体重 (前回比)	平均単価 (前回比)
ET和牛	メス	20 (100)	326,000 168,000	233,700 (108)	94 (96)	2,485 (112)
	雄	44 (98)	559,000 38,000	305,273 (114)	109 (106)	2,791 (107)
乳牛	メス	1 (100)	1,000 1,000	1,000 100	63 100	16 100
	雄	49 (100)	63,000 1,000	29,306 (208)	72 (100)	406 (208)
交雑牛	メス	61 (100)	160,000 1,000	94,508 (118)	75 (96)	1,267 (123)
	雄	77 (100)	160,000 10,000	109,779 (121)	77 (99)	1,430 (123)

価格：円(落札価格) 率・比：% 体重：kg

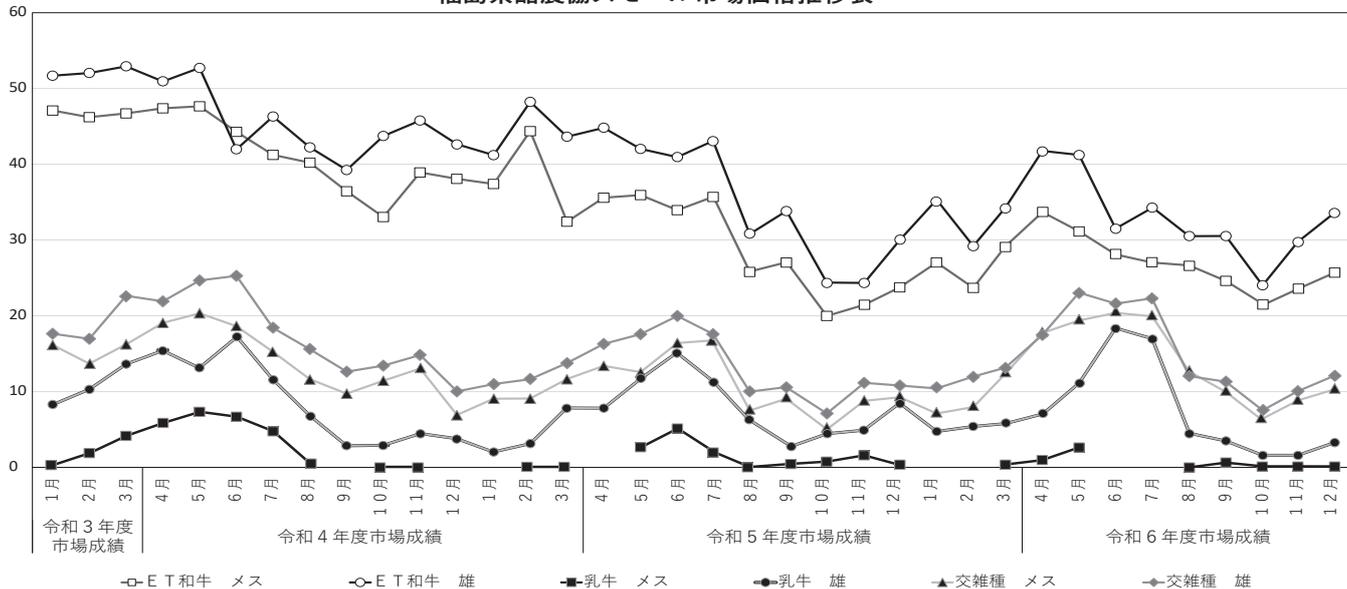
価格帯別分布表

(0は0.1~0.9万円、1は1.0~1.9万円、以下同様。尚、落札価格です。)

畜種	雌雄	価格帯(万円)																									
		<25	26	27	28	29	30	31	32	33	~	37	38	39	40	41	~	47	48	49	50	51	52	53	54	55	
ET和牛	メス	16	2			1			1																		
	雄	9	10	6	2	2	3		2	1		1			1	1		2		1		1		1		1	
乳牛		0<	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	
	メス	1																									
交雑牛		<0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	
	メス	2				4	1	2	6	10	5	8	13	6	2	1		1									
交雑牛																											
	雄		1	1	1	1	2		1	8	2	20	13	9	6	7	4	1									

単位:万円

福島県酪農協スモール市場価格推移表



組 合 の 動 き 12 月

12月3日	浜地区運営委員会	12月17日	地産地消運動促進ふくしま協同組合 協議会絆塾
12月4日	県北地区運営委員会		
12月5日	県南地区運営委員会	12月17	
12月6日	県中地区運営委員会	～18日	福島県酪役員研修
12月9日	FD24会婦人部研修会	12月19日	安全運転講習会（1回目）
12月9日	福島県獣医師会理事会	12月19日	臨床研究会
12月9日	ふくしまカーボンニュートラル実現会議	12月20日	東北生乳販連理事会
12月9日	全酪連代表理事との意見交換会	12月23日	福島県乳牛改良推進協議会理事会
12月10日	全酪連監事会	12月23日	FD24会役員会
12月10日	福島県酪女性部やまびこ会スキルアップ事業講習会	12月24日	安全運転講習会（2回目）
12月11日	福島県牛乳普及協会コンクール表敬訪問	12月24日	シャインコースト(株)取締役会
12月12日	乳牛せり市場	12月25日	日本酪農政治連盟福島県支部連合会三役会
12月13日	東北生乳販連事業推進委員会	12月25日	いわき支部総会・研修会
12月13日	酪王協同乳業(株)取締役会	12月26日	経営検討会
12月16日	福島県乳牛改良推進協議会幹事会	12月26日	令和6年度畜産高付加価値産地展開事業協議会総会
12月16日	地産地消運動促進ふくしま協同組合 協議会絆シンポジウム	12月27日	仕事納め

お詫びと訂正

本紙12月号（No.324）21ページに掲載しておりました令和6年11月28日に開催した第8回理事会について、報告事項の記載に誤りがありましたので、下記の通り訂正いたします。

報告事項

- 1) 役員研修視察先の変更について
- 2) 酪王協同乳業郡山工場解体工事及びアスベスト除去工事、機器買い取り業者の決定について
- 3) 今後の日程について

〈 誤 〉

報告事項

- 1) 経営検討農家の現状について
- 2) 子会社の令和6年度上期事業報告について
- 3) 畜産高度化支援リース事業の貸付申請について
- 4) 今後の日程について

〈 正 〉

酪王牛乳の

おいしいニュース

酪王カフェオレシリーズのコラボ商品でお馴染みの(株)長登屋より、「酪王牛乳キャラメル」が発売されました。

良質の原料をじっくり煮詰めて作られた、ほどよい甘さと酪王牛乳の優しい味わいがあるミルクキャラメルです。

表と裏でデザインが異なるため、売り場の面積に合わせて横でも縦でも置くことができる商品です。

中には四角いキャラメルが20粒以上入っており、透明フィルムの個包装となっているため、酪王牛乳キャラメルの白さが一層際立っています。



お土産品としては大変お求めやすい価格となっておりますので、贈り物としてぜひともご利用いただけますと幸いです。

発売日：2024年12月23日(月)

発売元：長登屋

販売価格：417円(税別)

450円(税込)

販売エリア：主に福島県内の

観光施設、高速SA等

『特派員報告』大募集

毎月、県内各地の情報を皆さまから提供いただき、共有していきたいと思っております。ちょっとした出来事、地域にあるお店の紹介などなど情報提供をお願いします。

連絡先

E-mail : hiro-watanabe@fukuraku.or.jp

F A X : 0243-33-1103



『ほっとMilk』投稿募集について

1. テーマは自由（ほっと(^o^)する話題がいいですね）
◎文章だけでも結構です。
◎写真があると最高です。
2. 受付（常時受け付けしています）
メール・FAX・事務所経由・直接持参、何でもOKです。
E-mail : hiro-watanabe@fukuraku.or.jp
F A X : 0243-33-1103

発行者 福島県酪農業協同組合 発行責任者 常務理事 岩谷 宏

〒969-1103 福島県本宮市仁井田字一里壇17番地 TEL 0243-33-1101 FAX 0243-33-1103 URL <http://www.milk.fukushima.jp>